



「素直な心」の大切さ

さわやかに晴れわたることの多かった五月が過ぎ、まもなく梅雨の時期が始まり、蒸し暑さが本格化します。部活動の県大会も始まり、そろそろ新学期の疲れが出る頃です。体調管理をしっかりしながら、学習習慣を確立できる生徒とできない生徒に分かれる大切な時期になります。



松下電器産業(現パナソニック)の創業者である松下幸之助は亡くなって20年以上経ちますが、現在でも多くの人に「経営の神様」として尊敬されています。彼は自分が何にもとらわれない「素直な心」で物事を考え、判断できているかを毎日反省していたと言われていました。皆さんも、生徒として多くの先生方から教科や部活動などで指導を受けていますが、本当に「素直な心」で指導内容を聞き、実践できているか反省して欲しいと思います。学習でも部活動でも基本をしっかり押さえ、身につけているかで、その後の伸びが大きく違ってきます。

プラスの感染力を持つ

人間にはミラー細胞と呼ばれる神経細胞があって、人の行動や感情が鏡に映ったように感染するのだそうです。例えば、隣の人があくびをしているのを見ると自分まであくびをしたり、周りの人が笑っていたりしたら訳が分からなくても笑ってしまった経験がみなさんにもあることでしょう。

このことは真剣に授業を受けて学ぼうとする生徒が多いクラスではプラスの感染力が働く一方、一部の生徒が授業中に居眠りや私語をするクラスではマイナスの感染力が蔓延していくことになります。一人一人が自分の進路目標を実現する自覚を持ち、プラスの感染力を発することで前向きなクラスにして欲しいものです。

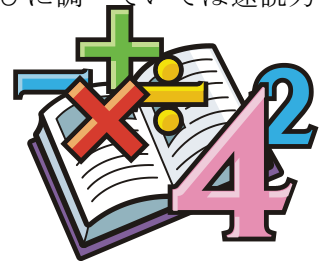


スタディサポート分析会より

普通科の2年生と3年生が3月に受験した結果について、分析会が先日ありました。両学年とも前回(2008年3月)よりも学習時間が伸びていましたが、まだまだ満足できる学習時間ではありません。平日は最低3時間、土日は部活動生でも6時間は学習する必要があります。

数学では、公式や定理は覚えるものの、問題を解き直して確認する生徒の割合が他校よりも低い結果がでました。もともと少ない宅習時間を数学に十分かけない生徒もいるようです。計算量や演習量が少ないので、実際の試験でも解けず、ますます不得意になる生徒が多いようです。英語では予習の仕方に課題が見えてきました。課題で出てくる知らない単語を見つける度に、辞書で調べている生徒が多いようです。前後の文脈からその単語の意味や品詞を予想して、長文を最後まで読んでから辞書で確認するようにしましょう。知らない単語を見つけるたびに調べては速読力を養成できないからです。

受験したみなさんは、自分が次のどのタイプに属しているか、受験結果をよく見てみましょう。基礎力・学習習慣の両方とも身に付いている「高校生」完成型、基礎力はあと一歩ながら学習習慣が定着している**学習習慣OK型**、基礎力は身に付いているが学習習慣が確立していない**学習要注意型**、基礎力・学習習慣の両方とも定着していない「高校生」になりきれしていない型の4タイプに皆さんは分けられます。**学習習慣OK型**の人は学習習慣ができていますから、今の努力を続けることで成績が上がっていくことが予想されます。高校の成績はすぐには上がりません。最低でも3ヶ月は努力を継続しなければ、ほとんどの教科で良い結果はでないものです。今後成績が下降していく恐れのあるのが**学習要注意型**の人です。学習習慣が身に付いていないので、**今までの貯金を食いつぶしていく**からです。「高校生」になりきれしていない型の人と共に今日から、生活習慣を見直し、学習時間を確保しましょう。



進路選択と志望理由

昨年の金融危機以来、景気が悪化しており、子供にはできるだけ安定した職業に就いて欲しいと願っておられる保護者が多くなっているのではないかと思います。例えば、看護師等の医療従事者を目指す生徒も増えているようです。本人がその職業を志望する理由が具体的で、適性も認められる場合は良いのですが、「保護者・家族から強く薦められてそれ以外の職業を考えられなかった。」と入試直前に答える生徒も毎年出てきます。単に「白衣に憧れて」等とイメージ先行で志望して、自分の適性や仕事のたいへんさを十分理解しないまま進路を選択して後悔する生徒もいます。

低学年のうちから、できるだけ具体的に志望理由を考えておくことが大切です。なぜ〇〇の職業に就きたいのか自問し、志望理由を掘り下げる必要があります。その職業に関する本を読んだり、その職業に就いている人の話を聞くことも有効です。志望職種に近い職場で体験学習をすることができれば最も効果的でしょう。旧種子島高校のある卒業生は早い段階から保育士志望でしたが、保育園で体験学習をしたことはありませんでした。入試直前の面接練習がうまくいかなかったので、その週の土曜日にある保育園に一日実習させてもらいました。翌週の面接練習では、彼女は子供の実態を観察した具体的な内容を堂々と答えられるようになり、見事志望校に合格しました。自ら体験したことが強い志望理由になると改めて実感しました。

就きたい職業は未定でも、進学して学びたい学問分野への関心をはっきりしている生徒はそうでない生徒よりも最後まで熱心に学習して合格する傾向があります。自分の興味関心だけではなく、現在社会で起きている問題を解決するために〇〇大学の△△学部で学び、社会の役に立ちたいという姿勢があれば、少々の勉強の苦しさに負けないはずです。高校3年間は成熟した親子関係を築く上で貴重な時期です。日頃からコミュニケーションをとり、子供の進路選択に関わっていただきたいものです。

進路指導部 阿多 慶輔

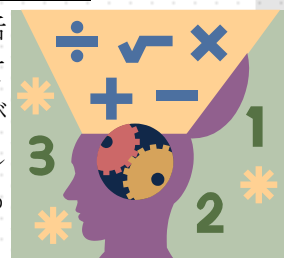
茂木 健一郎氏(脳科学者) が教える勉強法

1 勉強をすると、脳は喜びを感じる！

人間の脳には「ドーパミン」と呼ばれる快感を生み出す分泌物質があります。勉強をしていて、難しい問題が解けた瞬間、快感や喜びを感じる回路が働きあがるのです。

2 脳の働きの本質は自発性にある。

嫌々やっても、絶対に脳は活発に働きません。自分にとって簡単な問題を解いても脳は喜びません。より高い目標を達成してこそ、大きな快感が得られるのです。



3 脳に負荷をかけよう！

制限時間が1時間の問題を、50分で解くように努力してみる。できるようになったら、45分にチャレンジしてみる。※この作業はあくまでも自分の意思でやらなければ効果は出ません。人間のやる気は他人から強制されて生まれませんからです。

4 集中力を手に入れよう！

集中力=①スピード+②解いた分量+③没入感

- ① 問題を解くスピードを極限まで速くする。
- ② 圧倒的な分量の問題を解く。
- ③ 周囲の雑音が入らないくらい夢中になる。

(PHP 2008年7月号より抜粋)

当面の進路行事



6月 6日・7日 3年進研マーク模試
→3年生初のマーク模試です。がんばろう！！

6月 9日・10日 6月実力考査・進路セミナー

6月11日(予定) 放課後補習開始
→3年進学希望者 いよいよ受験勉強本格化！

7月11日・12日 全学年進研記述模試
→1・2年は国数英の3教科。3年生は5教科7科目の実施になります。

7月25日・26日 3年代々木ゼミマーク模試
→夏季休業中ですが、3年2回目のマーク模試です。
しっかり受験しよう！

